

ちやおノベルズ



原作/サンライズ 原案/バンダイ
文/大知慶一郎 ストーリー/碓カ/加藤陽一 イラスト/なぎり京

©SUNRISE/ BANDAI DENTSU, TV TOKYO ©BANDAI 2012, 2013

小学館

も く じ

第1章	おしゃもじをマイクに……3
第2章	私がアイドルになっても?……36
第3章	アイドルがいっぱい!……55
第4章	あなたをもっと知りたくて……81

第1章 おしゃもじをマイクに

「お姉ちゃん、ハイパーメガハンバーグ弁当ひとつ!」

「はいっ、メガハンいっちょよ!」

私の名前は星宮いちご。ごくごくフツの中学一年生。今はお母さんがやってるお弁当屋さんを、弟のらいちと一緒に手伝っているところ。

お母さんはフライパンを火にかけて、ハンバーグをじゅっと焼きはじめる。

「いちご、ライスお願いね!」

「うん!」

炊飯器を開けると、炊きたてご飯のいいにおい! おしゃもじで、お弁当箱にご飯を盛りつけていく。



「ハンバーグ焼けたわよ」

ほかほかご飯に、ジューシーなハンバーグ。うん、すっごくおいしそう！

「いつもありがとうございます。ハイパーメガハンバーグ弁当です」

お客さんにお弁当を渡すお母さん。最後の隠し味は、おいしく食べてもらえますようにって笑顔の呪文。

「ありがとうございました〜！」

私とらしいちも、笑顔でお見送り。私たちのお弁当で、笑顔になってくれたらいいな！

「いつも手伝ってくれて、ありがとうね」

夕方になってお店のあと片付けをしていると、お母さんがっこり話しかけてきた。

「ううん。ママと一緒にお弁当作るの、楽しいし〜！」

調理台をきれいにふいて——これでよしっ！

「でも、いちご。うちのごとばかりじゃなくて、自分のやりたいことを見つけてね」
「えっ？ 何、急に？」

お母さんはきれいになった調理台を撫でながら、優しく笑いかけてきた。

「ママは昔からお弁当屋さんやりたかったの。いちごにも何か夢を見つけてほしいなっ
て」

「私の夢……」

——なんだろう？ こういうことをしたら幸せ、っていうのが夢だね？ うーん、
でも私、今、幸せだしなあ……。あっ、そうか！ 私の夢ってこれだ！

「お弁当屋さん！ 大人になってもママと一緒にお弁当屋さんするのが夢かな」

今みたいに幸せに、楽しくお仕事できたらいいな。お仕事しているお母さんは、いつ

もキラキラ輝いてるし。私もいつか、お母さんみたいになりたいな。

「そっか！ なら、ママもまだまだがんばらなきゃ！」

「うん！」

私とお母さんは仲良くにつきり笑顔になった。

「らいち、晩ご飯できたっ！」

私とらいちは同じ部屋。ドアを開けると、らいちはなぜかあたふたしていて、

「う、うんっ！ すぐ行くからっ！」

ハサミで何かを切ってるみたいだけど……。ん？ 雑誌、かな？

「何それ？」

「な、なんでもないよっ！」